京都歴史災害研究　第 20 号（2019）43 ～ 51

資料紹介

大阪府における明治 18 年「伊加賀切れ」に関する記念碑について
――小学校教育での活用を模索して――

木谷　幹一*

Ⅰ．はじめに

明治 18（1885）年 6 月中旬から 7 月初頭にかけて、淀川流域では享和 2（1802）年の「点野切れ」以来となる未曾有の洪水を経験した[1]。この洪水は、枚方市伊加賀における淀川堤防の破堤を契機とした大水害になったことから、「伊加賀切れ」または「枚方切れ」と呼ばれ、近代以降の大阪、とりわけ淀川流域における大水害の一つに位置付けられている[2]。そのため、大阪市や淀川流域の各基礎自治体において、「伊加賀切れ」または「枚方切れ」は、小学校社会科で 50 年以上前から学習されてきた災害でもある[3]。まさに大阪府において地域伝承となっている災害である。

さらに、本水害直後、淀川を水源とした飲料水販売事業ならびに井戸水の規制強化がはじまり、それは大阪市における上水道敷設事業に発展するなど[4]、新たなライフラインの形成にも影響を及ぼした災害であった。

また、水害後に、管見の限りでは、自治体による災害誌の嚆矢（こうし）と言える報告書が編纂されたことも特筆される。これは『洪水志』と呼ばれ、菊御紋入り和綴じ本『洪水志』が明治 19（1886）年 6 月に、洋綴じの『洪水志』が明治 20（1887）年 2 月に、それぞれ大阪府によって編纂されている[5]。和綴じ本も洋綴じ本も内容は同じで、「第一編」、「第二編」、「洪水志附録」から構成されている。「第一編」は 6 月 17 日から 30 日の水害を、「第二編」は 6 月 30 日以降の水害と復旧活動などがまとめられている。そして、主に電信記録、公文書、村別の水位や浸水深の経時変化、大阪府が所有していた明治 18 年以前の水害記録などが時系列的に綴じられ、第二編には水害統計や石版画による水害風景や復旧工事風景などが附けられている。「洪水志附録」は主に奈良県の被害についてまとめられていた[6]。

『洪水志』は、明治 20 年 2 月 15 日の明治天皇の大阪行幸時の上呈品目録[7]にもあることから、大阪府の『洪水志』編纂への意気込みが感じられる。北原は明治 20 年 2 月発刊の『洪水志』に着目し、「第二編」の石版画と大阪歴史博物館の鶏卵紙写真について問題提起を行った[8]。植村は「1885（明治 18）年淀川大洪水の研究」と称して、大阪歴史博物館、中之島図書館、山口県文書館などに保管されている鶏卵紙写真 43 点、かわら版 17 点を見出し、それぞれの評価基準を呈示して記載を行った[9]。片山は、枚方宿鍵屋資料館（以下鍵屋資料館）の企画展示として、「伊加賀切れ」に関して、淀川資料館と連携展示を行っている[10]。筆者は、植村や片山とともに、「伊加賀切れ」直後に建立された 8 つの記念碑の巡検、各種史資料調査、鶏卵紙写真やかわら版の調査等を行った。平成 30（2018）年 4 月からは大阪府公文書館で自館保有の公文書のほか、鍵屋資料館・淀川資料館の資料を活用して企画展示[11]が、同 5 月からは大阪歴史博物館での特集展示[12]が相次いで行われ、本水害に関する関心が高まりつつある。

そこで本稿は、大阪府内に建立されている「伊加賀切れ」に関する記念碑、またはその事績を記した記念碑等を現地確認し、一覧表を作成したうえで（表 1）、記念碑等を活用した小学校の社会科での指導を検討することとした。まずⅡ章で『文部科学省小学校学習指導要領解説』[13]で該当する文言を抜粋し、筆者の考え方や視角を示した。Ⅲ章では「伊加賀切れ」直後または直接関連する碑を紹介し、大阪府知事の事績の捉え方を、洪水標示石からそれぞれの場所による違いについて考察した。Ⅳ章では「伊加賀切れ」の事績を刻んだそれぞれの記念碑を紹介し、「伊加賀切れ」の事績の捉え方を碑文から確認し、記念碑を組み合わせることによって、大橋房太郎、地域の変化について考察した。Ⅴ章では洪水によって漂着したとされる地蔵などを紹介し、それぞれの場所による違いについて考察した。以下検討結果について述べる。

* 大阪市立滝川小学校

表 1　記念碑等の概要

	名称（通称）	碑陽	碑陰	石碑設置場所	碑文期日	碑建立発起人	材質：石工	建碑式	篆額	撰文
1	明治十八季洪水碑	明治十八季洪水碑	澱河洪水碑銘と碑文	枚方市桜町 9（移設）	明治 19 年 9 月	菊田保太郎ほか	緑泥片岩：大阪松原嘉兵衛	明治 19 年 11 月 7 日		菊池純
2	修堤碑	篆額と碑文	発起者 11 名	高槻市唐崎南 3　淀川右岸堤防（移設）	明治 19 年 7 月	嘉来惟遵ほか	緑泥片岩	明治 19 年 10 月 31 日	建野郷三	土屋弘
3	赤井堤紀念碑	篆額と碑文		寝屋川市木屋元町 9	明治 19 年 7 月	西尾八郎次	緑泥片岩：大阪坂田友七		建野郷三	西尾徳太郎
4	澱河洪水紀念碑銘	篆額と碑文	発起人 150 名	大阪市都島区中野町 1　桜宮神社	明治 19 年 3 月	秋岡義一・筧半兵衛ほか	緑泥片岩	明治 19 年 10 月 24 日	建野郷三	菊池純
5	（淀川大洪水紀念碑）	碑文	幹旋人 15 名	東大阪市鴻池徳庵町 9	明治 19 年 7 月	浦橋儁建立幹旋人	花崗岩	明治 20 年 9 月 24 日		浦橋儁
6		碑文	建立時期ほか	柏原市上市 2　大和川堤防	明治 19 年 8 月	浦橋儁建立高萩弥一郎幹旋	花崗岩：浪華小西久富			浦橋儁
7	墾田紀功碑	篆額と碑文	碑文	東大阪市鴻池元町 2　鴻池家私有地内	明治 19 年 3 月	鴻池善次郎幸方	砂岩	明治 19 年 5 月カ	建野郷三	土居通夫
8	重修桜堤碑	篆額と碑文		大阪市此花区春日出中 3　墓地		中谷徳恭カ	頁岩：大阪松原嘉兵衛	明治 19 年 5 月	三条実美	五十川佐武郎
9	洪水標示石	浸水量		大阪市北区天満 1-22　宿舎内		造幣局	花崗岩			
10	洪水標示石	浸水量		大阪市北区天満 1-23　中門		造幣局	花崗岩			
11	洪水標示石	浸水量		大阪市北区天満橋 1-2　宿舎内（移設）		造幣局	花崗岩			
12	洪水標示石	浸水線		大阪市北区天満 1-22　4 号門内		造幣局	花崗岩			
13	和佐登幾利	不明	不明	大阪市都島区網島町カ	明治 24 年 6 月	筧半兵衛・秋岡義一	不明			西村捨三
14	六郷修堤碑	篆額と碑文	発起人	大阪市鶴見区放出東 1-23　正因寺（移設）	明治 27 年 4 月	牛谷彌ほか	花崗岩		山田信道	牛谷彌
15	淀川改修紀功碑	淀川改修紀功碑と碑文		大阪市都島区長柄東 3-3　毛馬排水機場	明治 42 年 6 月	高崎親章	花崗岩	明治 42 年 6 月 1 日	高崎親章	西村時彦
16	往来安全灯	東　往来安全	碑文と発起人ほか	大阪市北区中津 4　十三大橋南詰	大正 9 年 3 月	十三橋南詰町親友会	花崗岩			藤沢南岳
17	紀念碑	紀念碑と明治天皇御製	碑文と発起人	大阪市北区中津 2　富島神社	大正 10 年 10 月	十三思昔會	頁岩			十三思昔會
18	大橋房太郎君紀功碑	大橋房太郎君紀功碑等	碑文	四条畷市南野 2-18　四条畷神社（移設）	大正 12 年 6 月	大阪官民有志	花崗岩	大正 12 年 6 月カ		井上孝哉
19	記念碑	篆額と碑文	総代人議員ほか	大阪市北区長柄東 3 － 3　毛馬排水機場	大正 14 年 10 月	淀川左岸水害予防組合	花崗岩：浪速區元町二石金	大正 14 年 10 月 24 日	加藤高明	中川望
20	水防碑	水防碑と名言	碑文	大阪市都島区網島町 10　大川河川敷	昭和 55 年	大阪市	花崗岩			
21	川崎橋	川崎橋命名の由来と碑文		大阪市北区天満 1　川崎橋西詰	昭和 53 年	大阪市	ハンレイ岩／安山岩			
22	栴檀木橋	碑文等		大阪市中央区北浜 2 － 1	昭和 60 年	大阪市	ハンレイ岩			
23	安治川橋之碑	安治川橋之碑と碑文等		大阪市西区川口 2-4	平成 3 年 3 月	大阪市	人工物			
24	天満橋　橋名飾板	碑文等		大阪市北区天満 1　桜之宮公園	昭和 62 年 5 月	大阪市	人工物			
25	天神橋　橋名飾板	碑文等		大阪市北区菅原町 1	昭和 62 年 5 月	大阪市	人工物			
26	天神橋歴碑	天神橋橋歴碑と碑文		大阪市中央区北浜東 6	記録なし	大阪市	ハンレイ岩			
27	渡辺橋・肥後橋	碑文等		大阪市北区中之島 2-3	平成 5 年 9 月	大阪市	人工物			
28	十三大橋	碑文等		大阪市淀川区新北野 1-4	平成 9 年	大阪市	花崗岩			
29	木津川橋	碑文等		大阪市西区江之子島 1-9	平成 10 年	大阪市	人工物			
30	松島橋	碑文		大阪市西区千代崎 1-1	平成 11 年 4 月	大阪市	人工物			
31	寺小屋　中浜菁莪塾旧跡	寺小屋　中浜菁莪塾　旧跡	碑文ほか	大阪市城東区中浜 2　正圓寺門前	平成 6 年 12 月	正圓寺	花崗岩			
32	由緒之碑	由緒之碑　大坂冬之陣ほか	碑文	大阪市城東区蒲生 4　若宮八幡大神宮	平成 27 年	若宮八幡宮前宮司　森弥生	花崗岩			
33	野江水流地蔵尊			大阪市城東区野江 4			不明			
34	南中浜子安地蔵尊			大阪市城東区中浜 3　平野川堤防			不明			
35	小野平右衛門家案内板	説明文		枚方市新町 1-6	平成 3 年 8 月	宿場町枚方を考える会	木製			

本表に作成にあたり朝日新聞（聞蔵（きくぞう）Ⅱビジュアル）、読売新聞（ヨミダス歴史館）、大阪大学経済学部経済史・経営史研究室編「鴻池文書目録」大阪大学経済学 21、1972、37–148 頁、此花区視聴覚教育協議会編『重修桜堤碑』此花区視聴覚教育協議会、1990、33 頁を参考にした。

Ⅱ.『文部科学省小学校学習指導要領解説（平成29年7月告示）』

第3学年の内容（1）のイの（ア）の解説文は、次の通りである。「古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること」[13]。

第4学年の内容（3）に関する解説文は、次のようになっている。「過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること」[13]。

第4学年の内容（4）のアの（イ）の解説文は、次のようになっている。「地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解すること」[13]。

本稿は、第3学年の「古くから残る建造物」を記念碑等と考えて、「場所による違い」として土地の高低差や河川のどの部分、例えば上流か下流などを想定した。さらに第4学年の「過去に発生した自然災害」として「伊加賀切れ」を選定し、「伊加賀切れ」直後に建立された記念碑ならびに「伊加賀切れ」の事績を刻んだ記念碑から、「地域の発展に尽くした先人」を検討することとした。

Ⅲ.「伊加賀切れ」直後または直接関連する碑

1. 明治19年から明治20年に建立された記念碑

該当する記念碑は表1の1～8で、すべて碑文の最後に書かれた期日（表1では碑文期日と記した）が、明治20年2月15日の大阪行幸以前である。1、2、4については、大阪行幸までに建碑式も行われている[14]。

1の枚方市の明治十八年（ねん）洪水碑は「伊加賀切れ」の端緒となった切れ所に建立された碑である。碑文は水害の発生や被害概況、復旧活動が刻まれていて、「府知事建野氏聞事急先遣大書記官遠藤氏率其僚属拮据經營疏鑿水道」とあった。水害時、直ちに大阪府の建野郷三知事が遠藤大書記官を派遣し、自ら復旧活動に励行し属僚を率いて人為的に堤防を切開させたことが刻まれている。この碑は、昭和5（1930）年の枚方大橋の架橋や昭和43（1968）年の架け替えに伴って移設されている[15]。

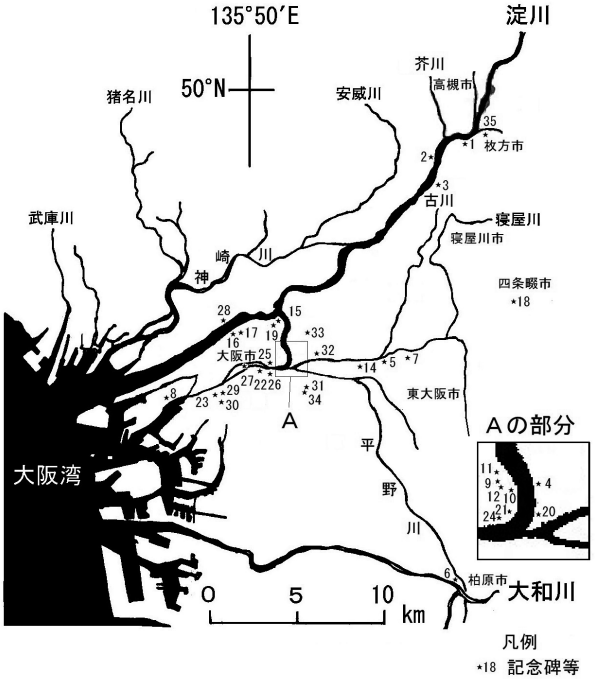

図1　地域概観と記念碑等の分布図
記念碑等は★、番号は表1の番号に準じる。

2の高槻市の修堤碑は、水害の発生から被害概況、淀川右岸地域での復旧活動が刻まれていて、「大阪府建野君巡視島上島下兩郡堤防」とあった。水害後に大阪府の建野郷三知事が堤防を視察し、淀川右岸堤防が危険な状態であったことから、直ちに属僚を派遣し、白石郡長と修繕計画を策定するように指示し、地元と協力して修復が行われた。その対応が視察に来た内務大臣の山県有朋から賞賛を受けたことが刻まれている。なおこの碑も昭和26（1951）年から27（1952）年の引堤によって、さらに昭和62（1987）年に移設されている[16]。

3の赤井堤紀念碑には、赤井堤を修復したことや水害の発生から淀川左岸での被害概況、復旧活動、「府知事建野君率土木課員馳視焉親勵土人」とあった。大阪府の建野郷三知事が土木課員を率いて視察に来て、地元の人々を激励し、碑文の最後に建野知事の功績を後の世代に引き継ぐために、この碑を建立したが刻まれている。赤井堤とは、枚方市と寝屋川市の境界を流れていた赤井川の天井川化に伴って築造された堤防で、伊加賀切れの切れ所から枚方市域に侵入した水を一時的に防いだ重要な堤防である[17]。

4の攝河洪水紀念碑銘には、水害の発生から被害概況、復旧活動、「大坂府下知府事建野君聞警蹶起曰民命至重是不可須臾舍也」とあり、大阪府の建野郷三知事は水害発生を聞くとすぐに人命救助を優先すべきと強い口調述

べ、その後櫻井郡長を派遣したことがわかる。さらに「知府事率僚属数人馳赴網島」とあって、人為的に堤防を切開する網島に、知事が属僚を率いてきたことも刻まれている。本碑は大川堤防を人為的に切開した野田村大長寺裏に近い桜宮神社境内に建立されている。それは桜宮神社が野田村の氏神であることによる。

5の東大阪市徳庵の記念碑には、水害の発生から寝屋川以南での被害概況、復旧活動が刻まれている。本碑は寝屋川南岸堤防、通称徳庵堤に建立されている。

6の柏原市の記念碑（写真1（5））は、大和川堤防の修築について触れている。ほかに「建野府知事賑恤民庶罹於災害者」とあり、大阪府の建野郷三知事が水害による罹災者を救済したこと、そして「嗚呼府知事之深仁厚沢与漠水其深浅豈如何乎哉」と刻まれていた。本碑は大和川右岸の築留堤防に建立されている。

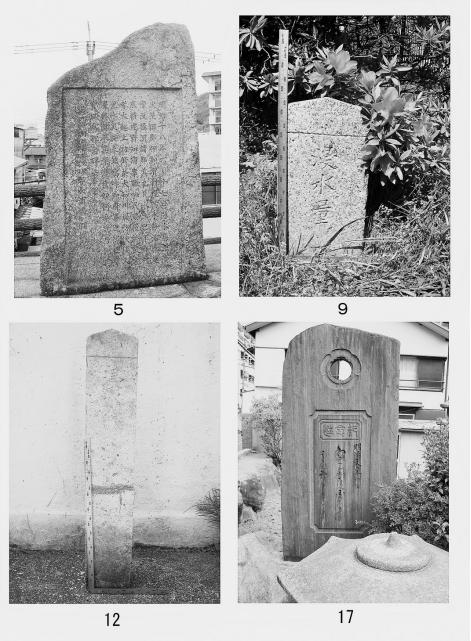

写真1　記念碑等の写真（5、9、12、17）
2018年4月19日撮影

7の東大阪市鴻池の墾田紀功碑の場合は、碑陽に建野郷三知事の篆額が、碑文として宝永の大和川付替えの経緯と鴻池善右衛門宗利の功業などが、碑陰には「伊加賀切れ」における地元の行動および鴻池善次郎幸方の避難民救済活動について追刻されている[18]。本碑は鴻池新田会所に隣接した鴻池家私有地の朝日社境内に建立されている記念碑である。

8の此花区の重修桜堤碑は、「明治十八年大水纔免其患後官修沿河之堤防也五新田合議出金以資其工費」とあって「伊加賀切れ」の被害はなかったが、地元合議して資金を出して堤防を修理したことが刻まれていた。その内容の大部分は、清海安五郎による高潮に対する教訓と、氏の防潮堤築堤を顕彰する内容が刻まれている。この記念碑には「伊加賀切れ」に関する記載が少ない。本碑は此花区の中谷家墓所に建立されている。

以上8箇所の記念碑を紹介した。それらのうち建野郷三知事の事績が刻まれていた記念碑は1、2、3、4、6で、すべて建野郷三知事を顕彰していた。よって第4学年の「地域の発展に尽くした先人」として、建野郷三知事が浮かび上がる。

さらに建野郷三知事のことを詳しく考察するため、菊池純（三渓）と浦橋僩（かん）が2碑を撰文していたことから、試みに2名の人物について考えてみたい。まず菊池純は、1と4の碑を撰文している。1は伊加賀切れの切れ所に、4は大長寺裏で人為的に堤防を切開した場所に建立されている。それらは、「伊加賀切れ」における象徴的な場所といえる。菊池純は和歌山藩江戸藩邸の藩儒、将軍家茂の侍講となり、水害当時は堂島にあった府立大阪中学校（現北野高等学校）一等教諭として漢文と修身を指導していた[19]。菊池純は大阪の道修町在住だったため被災したという[20]。大阪府立公文書館には、「大阪府資料　秘書綴　明治17年から明治19年」という簿冊があり、「明治18年大洪水被害詳細上奏案奉呈案（明治十八年七月廿七日）」に「菊池三渓閲」と「廣島山口岡山三縣、御巡幸ノ路次神戸行在所ニ於テ上奏セラレシモノ」という附箋が貼付された上奏案が綴じられている[21]。これは菊池純が上奏案に朱を入れたのである[21]。上奏案には建野郷三知事の印影も確認されたので[22]、水害当時、菊池純は知事の側近として府の公文書作成にも関わっていたと考えられる。これらの経緯から建野郷三知事が菊池純に2箇所の記念碑の撰文を命じたと考えられる。次に浦橋僩（かん）は、5と6の碑を撰文している。浦橋は明治13（1880）年に建野が大阪府知事着任した当初は大阪府六等属庶務課公儲金（こうちょきん）掛で、明治14（1881）年に丹北、河内、高安、若江、大縣、澁川郡役所の郡長心得、明治15年に郡長となった[23]。出身は建野と同じ福岡県出身の人物であった[23]。建野と同郷ということもあって、碑の建立を命じた可能性がある。

以上、撰文者の追究から、建野剛三知事が強力なリーダーシップによって、『洪水志』の他にもいくつかの記念碑の建立を主導した。まさに建野剛三知事は「伊加賀切れ」の時、「地域の発展に尽くした先人」といえる。1

～ 8 の碑文は、注の 24）～ 31）において翻刻もしくは書き下し文が掲載されている。

2. 造幣局用地の洪水標示石

洪水標示石とは浸水深等を線刻が施された花崗岩製の角柱で、造幣局男子寮宿舎（現在大川沿い通り抜け通路に移設）、大阪市立滝川幼稚園前の造幣局宿舎（写真 1 (9)）、造幣局中門、造幣局 4 号門の 4 箇所（表 1 の 9 ～ 12）建立されている。それらのうち、男子寮宿舎、滝川幼稚園前宿舎、中門の 3 箇所には「浸水量」と、4 号門には「浸水線」と刻まれていて、「浸水深」も 2 本線刻されている（写真1（12））[32]。なお線刻の深度は、男子寮宿舎では地面から約 45 cm、滝川幼稚園前宿舎では約 31 cm、中門では約 80 cm、4 号門では約 75 cm と約 35 cm のところにあった。

男子寮宿舎や滝川幼稚園前宿舎は、現在でも周囲より微高地となっているので浸水深が浅く刻まれたと考えられる。なお 4 号門の石柱には約 75 cm、約 35 cm のところに線刻されているので、造幣局用地内での代表的な浸水深を記録したという見方も可能である。

Ⅳ. 明治 20 年以降に建立された記念碑

－1　13. 和左登幾利（明治 24 年）

この碑は大阪朝日新聞の明治 24（1891）年 6 月 26 日朝刊の記事、「和左登幾利の碑を壊つ」で確認できる[33]。これは 6 月 24 日新旧知事を招いて、宴を行う準備をしていた時、野田村の農民によって石碑が破壊されていたという記事である。碑文は「明治十八年兩霖河決於上流河内国茨田郡伊加賀村浸摂河諸郡急起役鑿此以注下流民始得寧息矣實爲當時民命之所係因記其概云　明治二十四年六月建之　西村捨三撰」[34] である。大意は明治 18 年の霖雨で堤切れが起こり、伊加賀から入った淀川の水が、大長寺裏の堤防を人為的に切開することで、大川へ水が戻された。そして人々が安心して暮らせるようになったと書かれている。なお本碑は現存していない。

－2　14. 六郷修堤碑（明治 27 年）

この碑は、平成 15（2003）年 11 月 30 日に大橋房太郎の子孫である大橋徹郎・千鶴子が寄贈した花崗岩製の六郷修堤碑解説（記　森田泰齊）から、大橋房太郎の顕

写真 2　六郷修堤碑解説　2018 年 6 月 13 日撮影

彰碑であることがわかる。写真 2 に解説文を示す。六郷堤とは鶴見区から城東区の寝屋川の南堤のことで、当時六郷堤は低くかつ貧弱な堤防であった。そのために「如明治元年及明治十八年之惨民皆不安」つまり、明治元（1868）年や明治 18（1885）年のような水害が起これば、住民は不安であった。そして明治 20 年放出村と下辻村の戸長だった大橋房太郎が奔走して、明治 26 年に新しい六郷堤が完成したことが刻まれている。

－3　15. 淀川改修紀功碑（明治 42 年）

これは淀川改良工事の竣功を記念して建立された碑である。明治 42（1909）6 月 2 日付け大阪朝日新聞朝刊 3 頁には、竣功式の記事が大半を占めていて、大橋房太郎と大橋五尺君と氏名も 2 回確認できる。碑文には「十八年水害極暴翌年治水議起不敢行」とあり、明治 18（1885）年の水害が甚大な被害を与えたために翌年河川改修の議論が始まったが進展しなかった。しかし明治 24（1891）年に内海忠勝知事、北田豊三郎府議会議長となったときに政府に申請し、明治 29（1896）年から淀川改良工事が始まった経緯が銅板に刻まれている。

－4　16. 往来安全燈（大正 9 年）

これは旧十三橋の道標である。碑の北面は「明治十八年淀川堤防決潰して大水氾濫ありてより同川改修の議起り（以下略）」と刻まれていて、以下新淀川が開削されたことにより、十三の人々は明治 32（1899）年に立ち退いた。明治 35（1902）年に十三橋が完成し、川幅が 100 間から 385 間と拡大した。明治 42（1909）年 6 月に新淀川の竣功式が毛馬閘門で行われ、立ち退いた十三の人々がこの道標を建立したことが刻まれている。

ー5　17. 富島神社紀念碑（大正 10 年）

これは立ち退いた十三の人々による親睦会の記念碑であり、碑陽には明治天皇御製「わがこころ　およばぬ国の　果てまでも　よるひる神は　まもりますらむ」、碑陰には「明治 18 年の大洪水によりて、淀川改修の議起こり（以下略）」と刻まれている。以下新淀川の開削にともなう、明治 31（1898）年の立ち退き命令によって新淀川の両岸に分断された十三（じゅうそう）の人々が親睦を行う会を設けたことを記念したことが刻まれている（写真 1（19））。

ー6　18. 大橋房太郎君紀功碑（大正 12 年）

これも大橋房太郎の顕彰碑である。碑陽には淀川治水功労者　大橋房太郎君紀功碑　内務大臣正三位勲一等水野錬太郎書と刻まれていて、碑陰に「明治十八年ノ洪水惨状激甚ヲ極メ」とあって、この水害が当時 26 歳だった大橋房太郎に淀川の治水に生涯をかけるきっかけをつくったことなどが刻まれている。

ー7　19. 記念碑（大正 14 年）

これは淀川左岸水害予防組合創設の記念碑である。碑文には「明治十八年野洪水最湛ヲ極ム」とある。この水害が契機で明治 29（1896）年から淀川改修が始まった。大正 6（1917）年にも水害があり、土岐嘉平大阪府知事によって治水百年の計が策定され、水防団体が結成されたことなどが刻まれている。

ー8　20. 水防碑（昭和 55 年）

これは大阪市によって建立された記念碑である。野田村大長寺裏で大川堤防を人工的に切開した場所付近に設置されている。碑陽には「水防碑」と「災害は忘れたころにやってくる」と刻まれていて、碑陰に明治 18（1885）年の大洪水のときに、東成郡 27 村が水中に没したので、この付近の堤防を切開して、淀川に濁水を戻したことなどが刻まれている。なお実際に切開した場所は平成 16（2004）年に開園した藤田邸跡公園内である。

ー9　21 ～ 30　橋梁顕彰碑

21. 川崎橋命名の由来（昭和 53 年）（写真 3（21））
22. 梅檀木橋（昭和 60 年）（写真 3（22））
23. 安治川橋之碑（平成 3 年）
24. 天満橋　橋名飾版（昭和 62 年）

写真 3　記念碑等の写真（21、22、26）
2018 年 8 月 20 日撮影

25. 天神橋　橋名飾版（昭和 62 年）
26. 天神橋橋歴碑（不明）（写真 3（26））
27. 渡辺橋・肥後橋（平成 5 年）
28. 十三大橋（平成 9 年）
29. 木津川橋（平成 10 年）
30. 松島橋（平成 11 年）

26 の天神橋橋歴碑以外は、大阪市建設部橋梁課によって建立された記念碑である。明治 18 年の大洪水で流失したことや安治川橋は上流から流木が押し寄せたので工兵隊によって爆破されたことが刻まれている。

ー9　31. 寺小屋中濱菁莪塾旧跡（平成 6 年）

これは正圓寺山門等再建記念の碑である。碑文には嘉永元（1847）年に住職が寺小屋を始めたこと、明治 5（1872）年中浜校を設置し、明治 14（1881）年以降は民家を借りて住職と岩崎定が授業を行っていたこと、さらに「明治十八年淀川堤防決壊大阪城以東の全村が水没し、中濱の學舎も大破す　これにより自然廃校となる。」と刻まれている（写真 4（31））。

写真 4　記念碑等の写真（31、34）2016 年 8 月 23 日撮影

ー 10　32. 由緒之碑（平成 27 年）

これは若宮八幡大神宮宮司桑田栄男氏によって昭和 58（1983）年 1 月に建立された碑を、平成 27（2015）年 6 月に改修した碑である。改修に伴って碑陰に由緒や佐竹藩との由縁などが刻まれた。大坂冬の陣では当地境内を佐竹義宣の本陣としたが、神木の楠を篝火に使用してしまったので、大坂夏の陣の後、「佐竹藩より矢を献納され贖罪の祈願をなす、其の矢は仕わりて明治に至りしも十八年の洪水に社とともに流失せり」と刻まれている。

以上の記念碑のうち、例えば橋梁顕彰碑（21 ～ 29）から、「伊加賀切れ」によって大阪市内の諸橋が被害を受けたことがわかる。淀川改修紀功碑（15）、往来安全燈（16）、大橋房太郎君紀功碑（18）、記念碑（19）の碑文によれば、明治 29（1896）年から淀川改良工事が始まり、新たな淀川の放水路として新淀川が開削されたことを知れる。しかし新淀川の開削によって、十三地区では新淀川の両岸に立ち退いたことが往来安全燈（16）と富島神社紀念碑（17）から読み取れる。このように複数の記念碑を組み合わせることによって、「伊加賀切れ」以降の人々のくらしと淀川治水史を復元することも可能であろう。

また六郷修堤碑（14）、大橋房太郎君紀功碑（18）の碑文から、「伊加賀切れ」以降の「地域の発展に尽くした先人」は大橋房太郎が浮かび上がる。

Ⅴ．地蔵尊ほか

ー 1　33. 野江水流地蔵尊

これは平成 24（2012）年に大阪市の都市景観資源として登録された地蔵尊で、平成 29（2017）年 3 月に城東区役所によって「野江水流地蔵尊」の看板が設置された。看板には「明治十八（1885）年の未曾有の大洪水が大阪北部一帯を襲った際に、当地に流れ着いたと伝わるお地蔵さんです。」とあって、さらに城東区民にとって忘れてはならない出来事の証人として、毎年地蔵盆などの行事が行われていることなどが紹介されている。看板にはお地蔵さんの写真が掲載されていて、2 体であることもわかる。

ー 2　34. 南中浜子安地蔵尊

平成 11（1999）年 8 月 23 日に近隣住民 3 名が世話人となって「南中浜子安地蔵尊の由来」という看板（写真 4（34））が設置されている。看板には「明治十八年（1885 年）大阪東部を襲った未曾有の大洪水で、大阪城内の一角にあった、蓮如上人説法の松（袈裟懸の松）の側にあられた此のお地蔵様がこの地の平野川に流れつかれた。」とあって、さらにこの地に流れつかれたのも何かの縁と考えて、当時の住民 11 軒の方々でお祭りすることになったと紹介されている。

ー 3　35. 小野平右衛門家案内板

これは宿場町枚方を考える会による木製の案内板である。小野家の由緒について記されていて、最後に「尚、近年主屋改修によって、明治 18 年 6 月の洪水による軒先浸水時の鮒が屋根裏から発見された。」ことも付記されている。

以上から、南中浜子安地蔵尊は平野川と寝屋川の合流点、つまり下流にあったものが、「伊加賀切れ」によって上流に漂着したことがわかる。野江水流地蔵尊ととも

に「伊加賀切れ」で、なぜそこに流れついたとされるのか考えることから、水害の特徴についての深い学び[35]を実践できる可能性がある。

Ⅵ. まとめ

以上、大阪府内における35箇所の「伊加賀切れ」の事績を記した記念碑などを紹介した。これは「室戸台風」に関する記念碑などの54箇所[36]に次いで多い。箇所数から「伊加賀切れ」は大阪府を代表する災害であることが再確認できる。以下結果を要約する。

1）地域の先人として建野郷三知事と大橋房太郎の2名が記念碑等から考察できた。建野剛三知事は「伊加賀切れ」の時に、強力なリーダーシップとその深い仁徳によってその復旧活動を主導した知事として顕彰されている。大橋房太郎は、淀川や寝屋川の治水功労者として顕彰されている。一方淀川改良工事によって、新淀川の開削も行われた。そのために新淀川開削で立ち退いた人々が居たことも確認できた。また同時に複数の碑をつなぐ過程から、「伊加賀切れ」の時とそれ以降の地域の変化を読み取ることができることもわかった。小学校で有用な教材といえよう。具体的には、記念碑をカルタなどにして小学校では学習するのがよいかもしれない。また造幣局用地周辺には浸水深を示した石柱があって、土地の高低差と関連付けて浸水深の差を実感できる教材である。さらに城東区2箇所の地蔵尊は「伊加賀切れ」によって漂着したものであるが、なぜ漂着したかなどの原因を深く考える過程から「伊加賀切れ」に関して、深い学び[37]を見出すこともできる教材である。今後具体的な指導案を考えていきたい。

2）表1の1～6の碑は、すべて碑文が明治天皇の大阪行幸前に撰文されていた。これらの記念碑建立は、明治20年の明治天皇の大阪行幸が契機で、それを意識した建野郷三大阪府知事が府の属官達を発起人等に指名して、6碑の建立を推進した可能性も考えられる。今後、『洪水志』[38]の編纂とあわせて検証してみたい。

付記

本文作成にあたり、大阪市立中央図書館大阪室調査相談担当、大阪府立公文書館専門員の市原佳代子氏、謝政徳氏、的場茂氏、大阪府立中之島図書館、造幣博物館広報室、高槻市立中央図書館、市立枚方宿鍵屋資料館の片山正彦博士には資料調査に協力頂いた。記して謝意を申し上げます。

注

1）例えば「明治18年7月27日付け神戸行在所上奏文」、大阪府編纂『洪水志』大阪府、1887、97–99頁。
2）例えば①建設省近畿地方建設局編『淀川百年史』建設省近畿地方建設局、1974、1821頁②木谷幹一「淀川流域の「態と切」とは何だったのか」京都歴史災害研究17、2016、1–7頁。
3）大阪郷土研究会『改訂　さかえゆく大阪』、旭書房、1962、78–79頁。
4）高倉史人「大阪の水道の歴史」大阪あーかいぶず29（大阪府公文書館）、2002、1–4頁。
5）明治19年6月発行分は、表紙なし奥付けなし。丁数は、第一編は14丁、第二編と統計は90丁、附録は23丁、図版は15枚である。明治20年2月発行分は、表紙は「明治廿年二月刊、洪水志、大阪府蔵版」、奥付けは「明治廿年一月廿二日出版權届、同年二月刻成、大阪府蔵板、（禁販賣）」。頁数は、第一編は27頁，第二編と統計は180頁，附録は46頁、図版は15枚である。
6）『洪水志』編纂意図は不明であるが、大阪府庁文書「大阪府資料　秘書綴　明治17年から明治19年」のうち、「洪水實況一班（明治18年8月7日）」に「洪水志」に附けられた水害統計の雛型案が示されているので、水害直後から『洪水志』の編纂意図があった可能性がある。さらに「第二編」の水害概表の欄外には「（上奏附表）」という見出しがあるので上呈が目的で編纂された可能性もありうる。
7）明治20年2月23日付読売新聞朝刊。なお菊御紋入り和綴じ本の『洪水志』は大阪府に返却され、その後大阪府立中之島図書館に移管されている。
8）北原糸子「メディアとしての災害写真」『神奈川大学21世紀COEプログラム第1回国際シンポジウム　プレシンポジウム報告1・版画と写真－19世紀後半出来事とイメージの創出』神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006、73–95頁。
9）①植村善博「明治18年大阪水害のかわら版について」佛教大学歴史学論集、7、2017、1–18頁。②植村善博「1885年大阪水害の被害と記録写真」佛教大学歴史学論集、6、2016、1–11頁。③植村善博・木谷幹一「山口県公文書館および尼崎市立地域研究史料館所蔵の明治18年大阪水害写真について」京都歴史災害研究17、2016、23–48頁。
10）①常松隆嗣「枚方市立枚方宿鍵屋資料館・淀川資料館合同企画展「明治一八年の淀川洪水」を見学して」地方史研究374、2015、90–93頁。②片山正彦・新稲法子「守口文庫所蔵「明治十八年洪水碑記念扇子」について」渾沌39、2016、42–56頁。③片山正彦「明治18年の淀川洪水と北河内」京都歴史災害研究18、2017、17–27頁。
11）例えば的場茂「明治150年、明治18年、淀川大洪水の頃」、大阪あーかいぶず52（大阪府公文書館）、2018、1–7頁。
12）例えば大阪歴史博物館編『特集展示　大阪を襲った淀川大洪水』大阪歴史博物館、2018、4頁。
13）文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』日本文教出版、2018、31–69頁。
14）明治19年10月27日・11月2日・11月9日付け大阪朝日新聞朝刊。
15）枚方市史編纂委員会『郷土枚方の歴史』枚方市、1997、223–225頁、256–257頁。
16）中川種次郎『三箇牧水利慣行　続　淀川右岸』中川種次郎（自費出版）、1983、14–23頁。

17）寝屋川市史編纂委員会『寝屋川市誌』、寝屋川市、1956、523 頁。
18）東大阪市立鴻池新田会所編『朝日社のおもな石造物』、2009、2 頁。
19）大阪府立北野高等学校校史編纂委員会編著『北野百年史』北野百年史刊行会、1973、178–203 頁。
20）10）②と同じ。
21）11）と同じ。
22）大阪府立公文書館市原佳代子専門員による。
23）例えば①大阪府立公文書館蔵の大阪府史編集資料室『大阪府機構の変遷（未定稿）第 1 分冊（明治 2 年～昭和 15 年）』大阪府史編集資料室、1967、218 頁。②刎田新兵衛編『大阪府官員録（明治 14 年 2 月改正）』北尾禹三郎、1881、24 丁。
24）10）②に同じ。
25）寝屋川市史編纂委員会編『寝屋川市史　第 2 巻（改訂版）』寝屋川市、2006、498–499 頁。
26）16）に同じ。
27）大阪市立中央図書館編『大阪市内記念碑調査票綴』大阪市立中央図書館、2011。
28）東大阪市史編集委員会編『東大阪市の石碑（東大阪市史資料第 2 集）』東大阪市役所、1969、7 頁。
29）八尾市史編集委員会編『八尾市史』八尾市役所、1974、229–230 頁。
30）東大阪市史編集委員会編『東大阪市の石碑（東大阪市史資料第 2 集）』東大阪市役所、1969、4–6 頁。
31）此花区役所編『此花区史』大阪市此花区三十周年記念事業委員会、1955、263–264 頁。
32）木田伍一郎・山内鉄太郎「市内河川に関する碑石・埋立状況に関する調査報告書」、大阪市土木局業務論文報告集 3、大阪市土木技術協会 , 1980、743–765 頁。
33）明治 24 年 6 月 26 日付け大阪朝日新聞朝刊。
34）豊盛堂田村定助編『澱河流域水害圖』明治 26 年カ。
35）例えば澤井陽介『授業の見方－主体的で対話的で深い学びの授業改善』東洋館出版社、2017、216 頁。
36）木谷幹一「大阪市を襲った室戸台風による浸水被害を再検証する」立命館地理学 29、2017、51 頁では 53 箇所であったが、2018 年 11 月 14 日午前、大阪市立聖賢小学校において同校創立 100 周年記念事業委員会が室戸台風殉難者（計 24 名）に関する鎮魂碑の建碑式を行ったので、54 箇所とした。
37）35）に同じ。
38）5）に同じ。